

## 揖保川流域委員会現地視察時の説明

### 揖保川河口

(バス車内での説明：本町橋付近)

**河川管理者** ここは下流から約1キロということですが、ここからさらに下流の左岸側で引堤事業をやってございます。この地域、見ていただいて分かりますとおり人家が連担しておりまして、特に右岸側は人家密集地であるということでございます。流下能力を高めるために築堤をしているわけですが、右岸側を引堤するということです。引堤と言うのは、堤防を川の外側、堤内地と言ってますが、そちらのほうに引く事業のことで、当地区で実施しております。

また、ここから揖保川の河口のほうにずっと移動してまいります。河口部には特殊堤という堤防を作っております。これは堤防なんです。河口部であるということもありまして高潮への対策を兼ね備えた堤防を整備してございます。

### 5月20日現地視察時の増田委員による説明

(バス車内での説明：本町橋付近)

**増田委員** 私はちょうどこのあたりに住んでおります。元々これが本流でございましたが、現在では流れは主として元川のほうへ流れております。潮が引いた時にはこの上流のほうまでずっと瀬が現れるんですが、このあたりは特に深くて本町橋あたりは潮が引いても瀬が現れることはございません。このあたりが一番細くなっておりますので、堤防を工事するとき、対岸のほうで、立ち退きがございました。お寺が一カ所ございましたが、ずっと上流のほうへ移転しました。ちょうど向こうの橋が見えてます向こう側にお寺がありました。それから、近く川幅を広げるというようなことも聞いております。

またこのあたりは、私ども子どもの時には丸亀藩の陣屋がありまして、その跡地に非常に太い松が生えておりましてセミを採りによくここへやってきたものです。戦後何回か洪水がございました。本町橋も流れて落ちた経験がございました。ですので、陣屋のあった場所もだいぶ堤防をこちらのほうへ引きましたので狭くなりました。

山崎からこのあたりまで昔は筏も流れてきました。もちろん高瀬舟もです。網干町史を読みますと、だいたい揖保川流域の米の量は10万石ぐらいでございまして、龍野がそのうち5万石。そして各藩、いわゆる林田藩とか山崎藩とか。その他ずっと幕府領もございまして、そういうことからいくと、10万石のうちの半分は大阪や江戸方面へ米を送ったということでございます。そうすると大体5万石の米の計算からしましたら、約2,500隻の高瀬舟が年間下ってきたという計算になりまして、2,500隻といえますと、年間100日で割りますと1日で大体どれくらいかということが計算できるわけでございます。それを今度はこの丸亀藩の陣屋とか龍野藩の蔵屋敷に米を納めたり、高瀬舟から直接に海を航海する帆船に積み替えるとかしていたしましたので、この川の流域には材木なり炭屋さんなり米の倉庫なり、たくさんそういうものが建っております。今ではずいぶんと姿が変わりまして材木屋も全部材木港のほうへ移ってしまいました。

網干川という川がありまして、これは本流が分派しているところから東側へ堀がありまして、これが網干港だったのですが、そこは船の通運がなくなってから埋め立ててしまいまして水路も狭くなっております。河口部は昔のまま広がっておりますが、そういうような舟というものはほとんど無くなりまして、ダイセル網干工場の近辺に貨物船の出入りがあるだけです。

昔は廻漕店が網干川の両岸に何軒かあり、大阪まで、あるいは備前のほうへいろいろ荷物を送るときに廻漕店が取り扱っていました。しかしながら近年は全部陸運になり、そういうような廻漕店も一軒も無くなってしまいました。そういうことで、この河口部では歴史の変遷で、大きな様変わりをいたしております。

また海岸部にはたくさんの工場が立ち並びまして、戦争中には鉄鋼関係、機械関係、東芝の電気関係というのが並んでいたんですが、鉄鋼関係はどんどん姿が変わっていきまして、化学工業の会社は割と景気に強くて工場を縮小するところはありませんが、東芝の電気関係などは非常に将来が危惧されております。工場の関係もちょっと今寂しい感じでございます。

海岸、特に人工島を海に作りまして、河口部に行きましたら見ていただけたらと思いますけれども、揖保川の流域だけでなく広畑のほうまでも水を供給し、また水を浄化する姫路市の下水道の施設もつくっております。それから人工島のほうでは、県がやはり下水道の処理ということで目下建設を進めております。